令和 2 年度

事業所名 : あお空グループホーム向町

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200335		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム向町		
所在地	岩手県宮古市向町2番34号 坂下賃貸ビル3F		
自己評価作成日	令和2年8月20日	評価結果市町村受理日	令和2年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に基づき利用者の皆様がその人らしく生活が出来るよう、家庭的な明るい雰囲気作りを心掛けています。毎日のラジオ体操と下肢運動により自分で歩けることを維持できる様に支援に努めています。職員の資格取得にも力を入れスキルアップを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宮古市街地にある7階建てビルの3階と4階に当事業所があり、1階にはデイサービスと2階には事務所がある。理念として「家庭的な雰囲気の中で、その人らしく安心して生活を送れるよう」とあるように、午前中のラジオ体操やレク活動のゲームや貼り絵作成、歌唱など、利用者がそれぞれに好む活動を行って、理念に沿った日々の時間を過ごしている。また、かかりつけ医については、市街地の立地を生かして、入居前からの個人医院を継続して利用しており、医療との良好な連携体制が取られている。事業所がある鉄筋コンクリートビルは、水害時には地域住民のための避難ビルとしても機能する防災拠点ともなっている。コロナ禍のため、止むなく外出制限が続いているが、可能な範囲でのミニドライブの再開を検討する等、利用者の生活満足度の向上に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年10月6日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念に基づき日々のケアを行っている。笑顔の挨拶、声掛け会話には特に気を付けて支援をしている。	理念に「家庭的な雰囲気の中でその人らしく安心して生活を送れる」と掲げ、ホール内に掲示するとともに職員間で共有化を図っている。日々のケアにおいては、自宅と同様に過ごすよう家事手伝いなどを共に行ったり、無理強いすることのないよう配慮している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所を散歩他、買い物や理容等も近所のお店を利用する事で交流を持っている。	近所の薬局やスーパーが利用者の馴染みになっている他、小学校とは今年から交流を始めており、コロナ禍のために来訪はできないものの、4年生からのメッセージをホールに掲示している。中学生もボランティア体験として来訪している。	自治会に参加して地域との情報交換を試みるなど、より一層の交流促進を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議ほかボランティア訪問などを通して認知症の理解を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況報告、地域の情報等を話し合った内容は、スタッフ全員に周知しサービスの向上に活かしている。	会議は地元の自治会長や民生委員、市の担当者等で構成されており、現状報告や行事報告を行い意見交換している。今年はコロナ禍のために2月以降は未開催となっている。また、委員の欠席が多い傾向にある。	コロナ禍に対応して書面開催とすることが可能なので検討願いたい。また、委員として、地域の方の増員についても検討されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事や協力事項等は、日頃から連絡を密にとる様に心がけている。	運営推進会議には、市の担当者が毎回参加して情報交換しているほか、大雨警報等の発令の際には市から直接電話確認が入るなど、連携が図られている。年間数回されている行政主催の地域ケア会議には、管理者が毎回参加し、市内関係者との連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送り、カンファレンス等でスタッフ各々が利用者のケアを振り返り話し合っています。利用者の安全上、センサーなどを使用する場合はご家族から了承を得ている。	身体拘束の適正化に関する指針を作成のうえ、委員会を2カ月毎の職員カンファレンスにおいて開催している。家族の了解を得て、転倒防止のため3人が人感センサーを使用している。スピーチロックに関しては、その場で注意しあうほか、カンファレンスにおいても確認するようにしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待という行為がどのようなことなのか、自分達の介護の場面で当てはまるか検証し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている利用者はいないが、研修等で少々理解は出来ていると思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お話を伺ったり十分な説明をする事で理解、納得頂いた上で契約締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時他、ご家族に連絡の際に入居者の状況を伝え、意見等を聞いている。家族、本人の意見に耳を傾けケアプランにも反映させている。	大半の利用者が言葉で意見や希望を話すことができ、家族と会いたいとか買い物に行きたい、お墓参りしたい等の要望になるべく対応している。家族には2ヵ月毎にホームの広報を送付して、近況をお知らせしており、今はコロナ禍のために電話での対応を主に行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に提案や意見交換する場を設けている。他、連絡ノートの活用し問題の共有を図り意見、提案は管理者に報告している。	職員からは毎朝の朝礼時に様々な意見が出され、連絡ノートに記録して情報共有されている。2ヵ月毎の職員会議で出された休憩時間についての改善意見について、実際に反映されたこともある。管理者と職員との個人面談は年1回行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ無理のない勤務体制とり、各職員が目標を掲げ達成できる様に心掛けている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員一人ひとりの力量を把握し、資格取得へ向けてのセミナーへの参加等にバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会の会議他、研修に参加し今後も他事業所との交流を深めてサービスの質を向上させていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不安な気持ちを受け止め、耳を傾けながらより良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、要望等に耳を傾け理解し、話しやすい様に明るく和やかな対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーと連携を取りながら、その時の必要とされる支援の見極めと、今後を想定してのサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし関わっていく中で学ぶことが多く、意見、意志を尊重し、その人らしく生活が出来る様な関係を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時状況に応じた対応、報告、面会、電話等の協力をお願いしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人からの電話や面会等は、本人や家族から確認を取りつつ関われる様に支援をしています。外出、外泊等も出来るかぎり希望に添うよう努めている。	コロナ禍のために面会機会がなく苦労しているが、お盆で実家やお墓参りに出かける際は、家族と相談し、出来る範囲で対応している。理美容は、訪問美容と訪問理容を各利用者が利用し、馴染みとなっている。近所の薬局やスーパーを馴染みとしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格、利用者間の関係を配慮しながらレクリエーションなど職員と一緒に、楽しく暮らせるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご家族に会った際は挨拶を交わし、近況を伺うなど声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、行動の中で本人の思いを汲み取り個別の対応を心掛けている。	多くの利用者が会話で思いを表現することが出来、それを連絡ノートに記録して職員間で共有している。また、表情や仕草からも思いや意向を汲み取っている。歌を楽しむことは、多くの利用者が一緒に出来る傾向にある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中で、これまでの暮らしや環境を把握しホームでの生活に取り入れる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りでスタッフ同士が情報を共有し、現状の出来ること出来ないことの把握に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向に基づき、日々会話、様子観察をカンファレンスで話し合い3カ月毎に計画の見直しをしている。	入居時に、本人や家族の意向を確認し、主治医の意見書や実態調査票を含めて、管理者と計画作成者が介護計画原案を作成し、職員カンファレンスで話し合いのうえで決定している。計画は短期で3カ月、長期で6カ月毎に、モニタリングを行いながら、見直しを行っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノートの活用、申し送り等情報を共有し実践、見直しをして支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じてその都度話し合い柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	街の催し物他、ボランティア訪問、小学生との交流など楽しく豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診他、緊急時、出来る限り希望にそった病院の受診で対応している。 ご家族の協力もあり主治医とも良い関係を築いている。	全員の利用者が、入居前からの市内の個人医院をかかりつけ医として継続受診している。通院は大半が家族対応の受診をお願いしている。また、同ビル1階のデイサービスから、看護師が毎週来訪して体調管理を行っており安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変や気づき等、常時報告し合い指示を受け、適切な対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者と情報交換、相談、退院まで安心できるように努めている。また、看護師にも情報提供し利用者の方が安心して過ごせるようにしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の出来ること、出来ない事を説明し、出来るだけ家族の思いに近づける様に支援している。	重度化に伴う対応については、入居時に利用者や家族に予め説明している。実際に状態が悪化してきた場合には、家族との相談を経て特別養護老人ホームへ入所するケースが多い。看取りについては、協力医師の確保が難しい状況にあり、長期的な課題と捉えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAED使用方の訓練を通じて、緊急対応のスキルアップを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼夜想定避難訓練を行っている。水害等の災害時は避難ビルとなっており、同ビル住人と地域住民との協力体制を築いている。	災害時の避難訓練は火災想定を年2回、水害想定を年1回実施している。ハザードマップでは洪水浸水が2～5mの地域とされているものの、事業所所在の鉄筋コンクリート7階建てのビルは、近隣住民の避難ビルともなっている。火災時にはビル内住民の協力を得られる体制がある。	建物の特性から津波や水害には強さがある反面、火災時の避難には様々な起こり得ることも考慮して、協力者と一緒の避難訓練を繰り返し行われるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃より、利用者を尊敬・尊重する事をスタッフに声掛けし、他家族・外来者に対して本人のプライバシーに関する情報は、漏らさない様徹底しています。本人の意欲を高める様な言葉かけを心掛けている。	特に入浴や排泄介助の場面等では、利用者の尊厳やプライバシーの確保に配慮している。排泄時の声掛けでは小声でそっと話したり、着替えの際には周りから見えないよう気配りしている。入室時の声掛けとドアノックも励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の関わりの中で、ちょっとしたことでも本人が選択出来る働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床時間や就寝時間、食事など利用者のペースを大切に、希望にはできるだけ添えるよう支援している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは利用者の好みに任せているが、職員と一緒に考えて選んでいます。 整髪は近所の近所の床屋、美容室に来ていただき本人の意向を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付け等、利用者の状態に合わせて一緒に行っている。見た目にも配慮し楽しめるようにしている。	献立の作成や調理は職員が交替で行っている。 食材は近所のスーパーからの調達が多い。利用者は下拵えや盛り付けなどを手伝ってくれるが、今はコロナ対策のため手伝いを制限することもある。誕生日にはケーキも楽しみ、近所にある和菓子屋の味も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、食事量や水分量を記録し一人一人に合った摂取量になる様に支援しています。利用者の状況に応じて食事形態の変更も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声がけ見守り、又は一部介助をし、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表のチェック、各々の排泄パターン習慣を把握し、トイレ誘導、声掛けを行っています。 出来るだけトイレで排泄が出来るよう支援している。	排泄チェック表をもとにトイレへ誘導している。 今は布パンツで自立の方が1人、リハビリパンツ使用が7人、オムツ使用が1人となっており、8人が日中はトイレ使用である。在宅時よりは改善している方が大半であり、状況が悪化しないよう丁寧な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量をチェック表で把握し、ヨーグルトなどの乳製品を取り入れたり、日頃からバランスの良い食事を心掛けている。他、ラジオ体操を日課としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定者には声がけし理解を促している、個々の希望に合わせて臨機応変に支援している。	入浴は週2回を基本としており、1日3人ずつ声掛けしている。1人がシャワー浴となっている他は、全員が一般浴槽を利用している。同性介助の希望や入浴を嫌がる方はいない。利用者は、職員と1対1となる入浴時間を、会話や歌を楽しみながら過ごしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝は本人のペースで行っている。日中は出来る限り身体を動かすなどして安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、用法、容量、副作用などすぐに確認出来るようにしている。薬が変更となったときは看護師に報告し連絡ノートに薬効や注意等を書き、スタッフ間で報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせて、お手伝いをして頂いたり、散歩・レクリエーションなどメリハリのある日々を過ごせる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿い、ドライブ他、近くの店など職員が同行し外出支援を行っている、ご家族の協力も得られている。	普段は、近所の散歩や買い物、季節ごとのドライブを行っているが、コロナ禍のためにほとんど出来なくなっており、悩みとなっている。職員がいろいろ工夫し、ホールでのカルタ取りや塗り絵などを行っている。そろそろ、ミニドライブ等を行うことも検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方はいないが、ご家族から預り金として管理し、外出時には自由に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば、いつでも自由に電話をできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者間の人間関係を考慮しながらテーブルの配置をしています。他、季節ごとの手作りの装飾で、季節を感じていただけるようにしている。	ホールは南向きに大きな窓があり、床暖房とエアコンで温度管理されている。壁面には、小学生からの交流メッセージや利用者の塗り絵作品が貼られ、季節を感じさせる飾りつけがなされている。利用者は、ホール内で体操やレクリエーションを楽しんだりして、思い思いの時間を過ごされている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置することで、ゆったりとくつろげるスペースを作り、相談事等もある場合は事務所も活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向を聞き、本人の使用している物、馴染みの物、お花を置くなど本人が安らぐ様に支援している。	各居室にはエアコンと床暖房、ベッド、クローゼット、小箆筒が備付けられ、利用者はテレビやラジオ、椅子、家族写真などを持ち込み、壁面には自分の塗り絵作品を飾ったりと、各自がくつろげる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの中心に時間が分かるよう時計、日付のわかるよう日めくりカレンダーを設置し、トイレ等声掛けと見守りによる自立支援をしている。		